

研修医通信 Vol.78 2017年5月号

東京大学医学部附属病院 2年次初期研修医 加世田 健

指導医 小野 佑太 先生

5月に紀南病院にて1ヶ月お世話になりました、研修医 加世田 健です。

この1ヶ月間は病棟業務の他、透析室や細菌検査室、消防署などでお話を聞かせて頂き、また、神島での研修などもさせて頂きました。

症例に関しては、尿路感染症、褥瘡、誤嚥性肺炎、EGPA、低アルブミン血症、難治性腹水、てんかん後の意識消失などを経験させて頂きました。特に尿路感染症に関しては、入院患者の治療だけではなく、救急外来で診察してから、入院

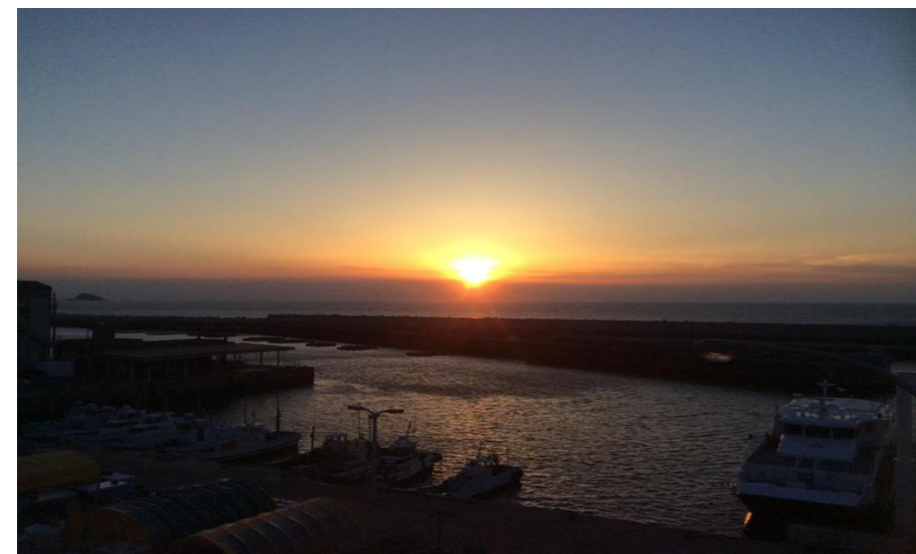


し、退院するまでの一連のプロセスを全て経験し、標準的な抗菌薬の使用方法や、症状の経過などを理解することが出来ました。また褥瘡に関しては、自分の担当患者だけではなく、院内のさまざまな患者様の褥瘡を診察する褥瘡回診を経験し、褥瘡の一般的な管理方法に関して学びました。

病棟業務以外で印象に残っているのは神島での研修です。神島に行く前は、外来に来る患者様の数も少ないだろうと考えていたのですが、実際には350人の人口に対して1日の外来患者の数が、少なくて10人、多くて30人と人口に比して非常に多い印象でした。診療所の診察を実際に診させて頂くと、軽症で気軽に受診される方が非常に多かったのですが、丁寧に一人一人診察されているのが印象に残りました。

最後に全体を通して学んだことは、

- 1 医師として重要なことは、患者の顔を直接見る事である事
- 2 医師の仕事だけではなく、細菌検査室など、他部署にも積極的に行くことで勉強になる事もある。
- 3 退院した後の生活のことも考えないといけない
ということです。



病棟の先生方、スタッフの皆様、院外研修先の方々、1ヶ月大変お世話になりました。ありがとうございました。



三重県立志摩病院 2年次初期研修医 日比 亨

指導医 野村 達磨 先生

地域医療研修として、1ヶ月お世話になりました、2年次初期研修医の日比 亨です。

自分の所属する病院も、地域医療研修の受入れ病院となっているような病院ですが、あえて別の地域の医療機関を見ることで、地域毎の医療の違いを見い出せるのではないかと考えました。

研修では、熱源が分からず苦慮した方や、電解質異常をどのように治すかで悩んだ方、経過を診る中で病状が明らかになり転院搬送した方など、印象的な症例がありました。指導医の野村先生と



相談し **decision-making**、方針決定のプロセスを経て、主治医としての視点で様々な経験が出来ました。上部内視鏡消化管内視鏡検査や、腰椎穿刺、中心静脈カテーテル留置、トロッカーチューブ留置といった手技も積極的に自立させて頂き、自身の自信につなげるとともに適切なフィードバックでよりよい学びにつながりました。内科外来や、紀和診療所・荒坂診療所で一般外来を診る機会も頂き、自分自身が今後のメインとしたい現場で、「スムーズに」「的確に」診ることの難しさを学びました。

わずか1ヶ月の研修ではありましたが、院内外の研修で、地域の置かれている状況次第で、展開していく医療に違いが出ることを、僅かでも感じ取れたのではないかと思います。

個人活動として自転車で、丸山千枚田や峠めぐりをしたり、熊野詣をしたりなど、あちこちを周りました。地形の多様性に、非常に興味深いフィールドだと感じ、まさに三重県の自転車乗りにとって天国と感じました。

6月1日から4日間の日程で、自転車ロードレース「ツール・ド・熊野」が行われます。スタッフ・ドクター参加させて頂き、貴重な経験をしたいと思います。

自転車を通した出会いもあり、非常に濃厚で興味深い1ヶ月でした！

地域の皆様、そして指導医 野村先生をはじめ紀南病院の先生方、スタッフの皆様、大変お世話になりました。紀南地域には個人的にまた訪れます。紀南病院へも機会があればまた来たいと思います。

ありがとうございました！
Auf Wiedersehen!

